

私の体験的

# 地方議員論



鈴木 淳司  
衆議院議員

## 「愛知万博」招致に 地方議員連盟で全力投球

私は幼い日にケネディ暗殺のニュースをテレビで見、政治の世界に興味を抱いていましたが、具体的に行動を起こしたのは、早稲田大学4年のときで、新聞で松下政経塾の募

集を知って、受験を決意しました。「劫初よりつくりいとなむ殿堂にわれも黄金の釘一つ打つ」といふ与謝野晶子の歌が喜びでした。発言原稿は推敲に推敲を重ね、大所高所からの質問も

平成3年、33歳で地元瀬戸市議会議員選挙に出ました。市議選は1票がとても重い選挙ですが、幸い保守系候補の過去最高得票で初当選できました。



愛知万博開催が決定したモナコにて(右端が筆者、左隣は増岡錦也・現瀬戸市長)

の門をくぐったのです。政経塾を卒業する年に、統一地方選挙があり、立候補も考えましたが、結局見送り、3年間、民間企業で働きました。そこで実社会で生きていく自信が生まれ、あらためて政治の道に挑戦する勇気がわきました。

して「そんなことは国政経塾を卒業する年、統一地方選挙があったこともありますが、そのころの経験が、今日の活動の土台になっています。」

実は私が市議会議員にして奔走しました。その前年に、瀬戸市の「海上の森」が愛知万博のメイン会場の候補地に決まり、瀬戸市が愛知とカナダ・カルガ

り、統一地方選挙があり、立候補も考えましたが、結局見送り、3年間、民間企業で働きました。そこで実社会で生きていく自信が生まれ、あらためて政治の道に挑戦する勇気がわきました。

万博誘致は、最後にオオタカの営業地を避す。

愛知万博は、決定後、絶滅が危惧される。進に携われたことに大きな誇りを感じています。

## 地域主権の誇りと 気概を持って

市議会議員を2期務めたい。たあと、衆院議員に転じたわけですが、国会から見ると、地方議員は国民各界各層の直接的な代表者です。物言わぬ市民、国民の代弁者として、皆さんがどんな気持ちで生きていくか、真摯に耳を傾ける、具体的施策に反映

経歴  
平成3年、瀬戸市議会議員に保守系トップ当選。愛知万博招致に尽力。2期務めた後、15年、総選挙(比例東海ブロック)で初当選。17年、総選挙(愛知7区)で2度目の当選。現在、総務大臣政務官。